

# 施設の高温対策学

## 光合成と温度の管理を

【いばらき】茨城県施設園芸研究会は17日、笠間市の県農業総合センター園芸研究所で冬季研修会を開いた。生産者や県機関、JAなど関係者約50人が参加し、高温下での施設栽培について対策や情報を共有した。

### 茨城県園芸研究会

明治大学農学部岩崎泰永教授は「施設園芸（トマト・キュウリ）における高温対策について」の演題で講義した。岩崎教授は「夏季の高温で植物の発育速度が速まり、光合成産物が不足しやすい」と指摘。「気温を下げるた

め遮光すると、さらに光合成産物の不足は顕著になる」と注意を喚起した。その上で、「高温対策の基本は、光合成産物を増やすことと生育速度を抑えること」とし、「光と温度、水のバランスを考慮して栽培することが重要」とし

### ダクトファンなど導入例紹介

情報提供では、賛助会員のメーカー3社の担当者が「高温対策資材及び機器の紹介と導入事例」について紹介した。(株)イノベックスの玉村奨吾さんは、光を遮らず遮熱に特化した自社製遮光ネットの特長を説明。(株)イズの宮内智恵美さんは、化石燃料を使用しない農業用ハウスへヒートポンプを導入するメリットを訴えた。フルタ電機(株)の柏村育男さんは、可搬型外気導入ダクトファンについて紹介した。